

『1.16』の地平を基点に 新たな闘いの高揚をかちとれ

1、16 団結旗掲揚の圧倒的成功は、動労千葉地本のこの向の三里塚・ジェット闘争をはじめとする闘いの階級的正義性をさらに鮮明にした。この団結旗掲揚の圧倒的成功は、組織破壊攻撃に対して断固闘い抜き、労農連帯をさらに打ち固めて三里塚・ジェット闘争を叩き抜く決意と、これまでの規模をさらに上回る広範かつ重層的支援・連帯の拡がりを鮮明に突き出し、叩き体制をさらに打ち固めたということを実感している。

勝利の核心点

「万全の防犯体制」と「正義性」この圧倒的高揚を可能とした要因は、一、二、三、年末年始に構築された万全の地本防犯体制であり、この防犯体制の構築によって、革マル派が再三にわたる千葉地本全組合員宅へのデマビラ郵送、全国の取場で「千葉地本を擁護する悪質（革マル派）にとって都合の悪い戦術的労働者」を追放するぞ」という恫喝のビラをまくなどして策動した千葉地本破壊策動を完全に粉碎したという自信と確信である。

1、16 団結旗掲揚の圧倒的成功を可能にした二つの要因は、「水本」運動の動労へのセクト的持ち込みに反対し、労農連帯を破壊し、三里塚・ジェット闘争を圧殺しようとする策動に断固対決し、暴力に屈せず叩き抜き、「労農連帯の強化」「武操型貨物合理化粉碎」「戦術的労働運動の再生」をもって教訓の八〇年代を索引する新たな労働運動の構築をかちとらんとする動労千葉地本の叩きの絶対的正義性であると同時にわれわれの取場と生活を守る重要な叩きなのだ。

旗ひらぎでの発言より

福祉センター大ホールは、1300名の熱気でうずまいた。会場は、中野書記長。

立派な千葉地本に成長して、うれしい…。

動労OB会会長・実戸良一（しと・りょういち）

「私が委員長をやっていた頃は、弱虫の千葉と冷やかされた。10年前に動労を卒業した人間として、今日の旗掲揚はまさにおどろきだ。こうした立派な千葉地本になった事を心の底から祝福したい。OB会も誇りをもって高令者問題等、いろいろ闘っているが、若い現役の人たちも年寄りを暖かく包みこんで共に闘ってほしい。ガンバリましょう！」（要旨）



さらに叩く組織体制の確立を

われわれは、今後、このかちとった地平にふまえ、七回支部代表者会議で確認された全組合員による地本・支部の防犯体制をさらに強固にし、日常的な叩き——労働条件を守り、命と生活を守る叩き、反戦の叩きなど——を万全に叩き抜いてゆくのでなければならぬ。

この向の千葉地本の叩きとその階級的正義性を再度全体で学習し、とらえ返し、あらゆる機会をとらえて主張し、全国の仲間と訴えてゆこう

学習しよう！

そのための素材として「日刊動労千葉」は、「問題の核心は何か」ということについて、今後幾度かにわたってシリーズ形式で全組合員に提起してゆきたいと思う。

学習しよう！
自信と確信をもって叩き抜こう。